

吉野 一夫 議員（自民新政治家）

総合型地域スポーツクラブの現状認識と今後の取り組み姿勢を問う

教育長 自主運営のための

資金確保が課題と考えている



質問 平成23年スポーツ基本法が施行され、健康や地域の和のため、スポーツクラブが全国各地に設立された。その数は3,500を超えた。しかし、新しい公共・協働をうたったその裏では、担当者が悪戦苦闘している現状にあり、我が町も同様の状況である。そこで、町の総合型地域スポーツクラブの現状認識と課題及び今後の町の取り組み姿勢について教育長の所見を伺う。

教育長 町のスポーツクラブは、スポーツ振興くじ助成事業の補助金も得て運営基礎を作り、子供からお年寄りまで誰もが色々なスポーツ活動を体験できる地域密着型スポーツクラブとして活動している



「ミスホ笑夢スポーツクラブ」が主催する健康体操（武道館）

質問 町は、10年後の高齢者人口が30パーセントを超えると予想している。高齢者のだれもがいきいきと暮らせる社会を進める必要があると考えている。

町長 町は、10年後の高齢者人口が30パーセントを超えると予想している。高齢者のだれもがいきいきと暮らせる社会を進める必要があると考えている。そこで次の点について

村山 正利 議員（自民新政治家）

今後の高齢者対策を問う

町長 保健福祉事業をさらに充実させていく



「高齢者と子どものつどい」での脳トレ体操（殿ヶ谷地区）

て町長の所見を伺う。

問① 第6期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画での最重要課題は。

町長 ①地域包括支援センター機能の強化②在宅医療・介護連携の推進③地域資源の把握と関係機関の連携④認知症施策の推進⑤新しい介護予防事業や生活支援サービスの創設

問② シルバー世代の雇用対策は。

町長 厚生労働省の高年齢者雇用対策およびハローワークの各種事業と連携していく。

問③ 健康と生きがいづくりの取り組みは。

町長 特定健康診査などの受診を推進する。また、保健師などによる健康・栄養相談や健康教育を通して、健康づくりの支援をしていく。生きがいづくりについては、保健福祉事業を更に充実させていく。



原 隆夫 議員（公明党）

子育て支援のガイドブックやWEBサイトの作成を

町長 時代に即した情報伝達方法を考える

質問 少子化が進む中、将来にわたって地域の活力を維持するために、子育て支援の充実が求められている。子育てに追われる親たちに多様な行政サービスのメニューを認知してもらおうのは容易ではない。他自治体では、妊娠前から高校進学するまでの、様々な子育ての行政情報を一冊にまとめた「子育て応援ブック」や情報が得られるWEBサイトを作成している。そこで、我が町もこのような施策に取り組みべきと考えますが、町長の所見を伺う。

町長 町では、子どもの成長のために「瑞穂の福祉」という冊子を、また民生・児童委員は、保護者の不安や負担を軽減するため



「子ども家庭支援センターひばり」にある手づくりのパンフレットラック

「瑞穂町子育てガイドブック」を配布している。WEBサイトに利用しやすいページ構成に取り組み。常に使いやすいさと時代に即した情報伝達方法を考えることが行政の課題であると認識している。28年度にはホームページのリニューアルを行う予定であり、さらに利用しやすいページ構成に取り組み。常に使いやすいさと時代に即した情報伝達方法を考えることが行政の課題であると認識している。

齋藤 成宏 議員（民主党）

町も参加決定した「子どもを守るネットワーク」のさらなる有効活用を

町長 各種団体との情報交換に努めていく



問③ 広報・周知の拡充とSNS等も利用を。

町長 引き続きメール配信などを活用し、



庁用車に貼られた「子どもを守るネットワーク」のステッカー

こんな質問もありました
「ヘリサイン」の積極的設置を

町長 広域避難場所である小・中学校を優先し、屋上等改修工事にあわせて整備の拡充を図る。

質問 三多摩地域で車輛を活用する民間事業所、金融機関、自治体などで構成する防犯組織

織「子どもを守るネットワーク」に、瑞穂町も3月に参加を決定した。このことに、非常に高い評価と期待をしている。今後は、有効活用に向けて、次のことを提案する。

問① 各種団体・構成組織間との連携構築を。

町長 見守り体制には、各種団体や参加事業者・地域防犯協会との連携が最も必要であり、会議や学習会などに率先して参加して、情報交換に努めたい。

問② 教育現場・家庭間との連携構築を。

町長 町教育委員会との連携を強化し、学校・保護者・地域の方々へ見守り体制の維持を呼びかけていく。